第6学年　総合的な学習の時間
単元名「ラストメモリー～展覧会を彩ろう！～」(45時間)

令和７年度　実践版

領域：情報 ・ 環境 ・ 伝統文化 ・ 福祉 ・ 国際理解 ・ 食育 ・ キャリア ・ 安全 ・ 教科横断発展 ・ 地域とのつながり ・ 市民科との関連

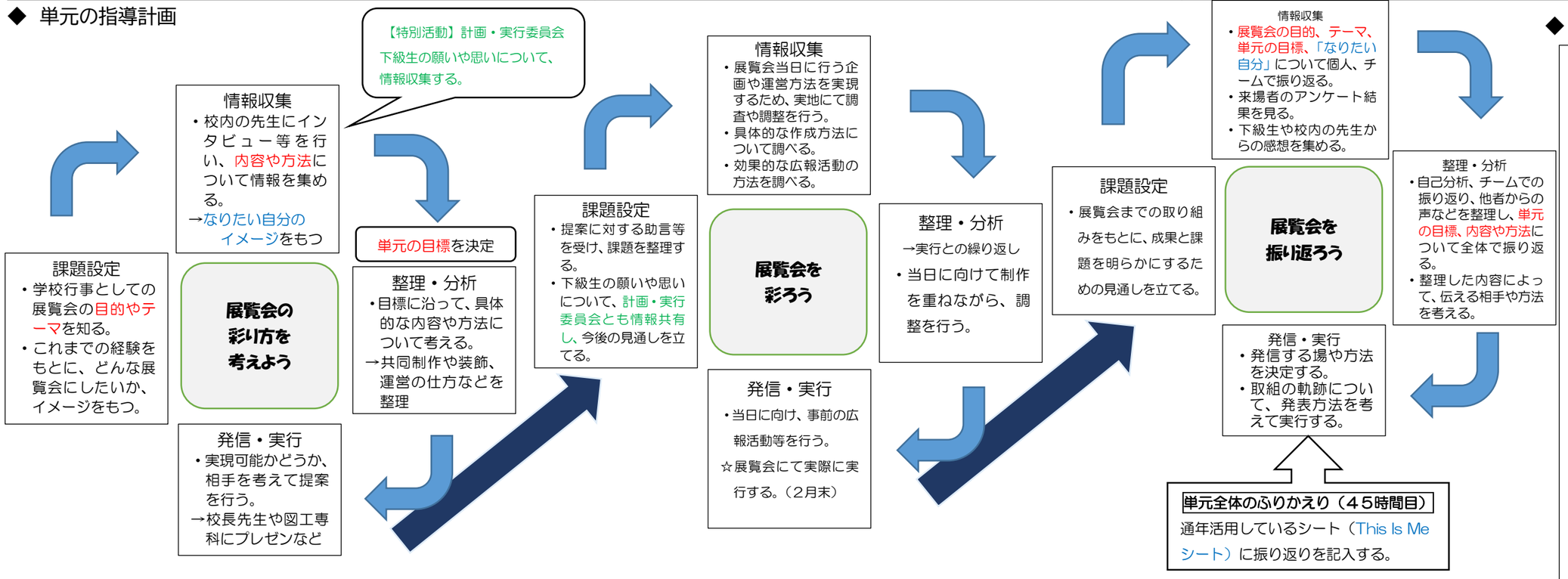
【学習時期・年間の見通しなど】
・11月～展覧会(2月下旬)～3月まで

【研究授業日程】
・研究授業日程　令和7年11月19日(水)　5時間目

◆ 単元を通して育成する資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・「展覧会～彩り～」の実現のために、広く目を向けて課題を見いだし、解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てることができる。 ・多様な方法で自分の目的や意図に即した情報を収集し、種類に合わせて紙面や ICT で蓄積することができる。 ・収集した情報を整理・分析し、発信・実行に生かすことができる。	・「展覧会～彩り～」の実現に向けて課題を見いだし、情報を集め、整理・分析し、まとめたり表現したりすることができる。 ・適切な思考ツール等を選んで情報を整理し、情報と情報がどのような関係にあるか見いだすことができる。 ・他教科で培った表現力等を活用したり、学習の仕方を振り返り、他の学習や生活に生かしたりすることができる。	・他者と協働して、課題解決にすすんで取り組もうとする。 ・探究活動を通して、自分自身を理解し、他者の考え等を受け入れ尊重しながら学び合おうとする。 ・地域との関わりの中で、地域にとって必要なことと自分にできることを検討し、実践に移そうとする。

◆ 単元の指導計画



想定される学習の様子

【課題設定】	【課題設定】	【課題設定】
・今年度の展覧会の目的、テーマ(～彩り～)について知り、イメージをもつ。→思考ツールを用いて、全体の共通理解を図る。 ・展覧会の経験や情報が足りないことを自覚する。 【情報収集】 ・校内の先生へのインタビューや地域の作品展、インターネット等から情報収集する。 【整理・分析】 ・収集した情報等を基に、当日に向けた具体的な「彩り方」を検討する。 ・どんな役割が必要か、前回の展覧会も参考に検討する。 ・役割ごとにチームに分かれ、各チームの目的に沿って計画の全体像を把握し、企画書やプレゼンテーションを作成する。(6チーム:会場、共同作品、イベント、思い出、宣伝、ガイド) ・チームの活動、計画・実行委員会それぞれの役割のすみあけについて明確にする。 【発信・実行】 ・企画書を校長先生や図工専科など、各関係者に提案する。	・提案した内容を精査し、当日に向けた実施計画を立てる。 ・展覧会本番に多くの人を動員する意欲を高め、広報活動に関心をもつ。 【情報収集】 ・当日に向けた共同制作物や作品紹介の作り方、手順などについて、経験した先生方に助言をいただく。 ・実際に広報活動を行っている地域の方から指導を受ける。 【整理・分析】 ・どのような作成方法や広報活動が、適切であるかを検討する。 →決定後、実質的な準備を行う。→リハーサルを通して調整を行う。 【発信・実行】 ・事前の広報活動、当日の企画等を実現し、地域や保護者にも発信する。	・行事としての展覧会、単元の学習を振り返り、次に生かすための見通しをもつ。 【情報収集】 ・自分たちの手応えを振り返る。 ・地域や保護者にアンケートや、下級生や校内の先生の感想を集める。 【整理・分析】 ・展覧会本番の成果と課題を明らかにする。 ・よりよい展覧会の実現に向けて、下級生に引き継ぐ内容を決める。 ・自分たちの行事への取り組み方をまとめる。 【発信・実行】 案:下級生に向けて、引き継ぎたいことを発表する。

◆ カリキュラムの関連について

特別活動との関連
・文化的行事
→鑑賞の仕方について理解し、美しいもの、よいものをつくり出し、互いに発表したり鑑賞し合ったりする活動に必要な知識や技能を身に付ける。
→自他のよさを見つけ合い、自己の成長を振り返り、積極的に自己を伸長しようとする。
・学級会
→学校における生活をよりよくするための課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践する。

国語科との関連
・「いちばん大事なものは」
→互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。

図画工作科との関連
作品を展示したり、作品の説明をしたりすることで、児童の造形活動の意味や価値を広く伝える。
・「あったらいいなプロジェクト」
→展覧会に来た人がたのしいと思える空間づくりの活動を通して、発想・構想する力を身に付ける。みんなで力を合わせてたのしく活動する喜びを味わい、主体的に活動に取り組んでいる。
→図画工作で学習したことを生かしながら、他学年や保護者、地域にどのように関わるかを考えたり、調べたりして、表現活動に取り組むことができる。